まずは記念館前で大友亀太郎の像に接見。どのような人生を歩んだのか、館内で学びたい。

大友亀太郎の功績と、札幌の玉ねぎの歴史を知る

東区

さっぽろむらきょうどきねんかん

札幌村郷土記念館

創成川として今も残る大友堀

現在の東区に位置していた「札幌村」は、慶応2年（1866）に徳川幕府の命を受けた大友亀太郎の尽力により札幌の発展に重要な役割を果たした。

昭和52年（1977）開館の札幌村郷土記念館は、大友亀太郎役宅跡地（札幌市指定史跡）に建ち、幕末から昭和期の貴重な地域の歴史資料を収蔵・展示している。

展示の柱でもある大友亀太郎は、相模国足柄下郡西大友村（現在の神奈川県小田原市）の農家の長男として生まれ、苦学の末に二宮尊徳に師事。幕府からの命を受け、安政5年（1858）に箱館奉行所へ渡った。木古内と鶴野（現在の七飯町）の開拓を成し遂げたのち、慶応2年（1866）に石狩の開拓を任される。石狩を調査して回った大友は開拓の場所を元村（旧札幌村の一部、現在の札幌市東区内）に定め、役宅を現在の記念館付近に置いた。さらに約4kmに渡る用水路「大友堀」の工事を3カ月程で完成させ、翌年に御手作場（模範農場）も造り、農民を移住させる。用水路の一部（南3条～北6条）は、後に島判官による札幌の都づくりの東西基準線になり、今も創成川として残っている。彼の偉業を伝える古文書や遺品など55点の歴史資料（札幌市指定有形文化財）は必見だ。

コレも見どころ

「札幌黄」の生みの親、ブルックス博士の功績を刻む

令和4年10月、札幌市制施行100年と東区制施行50年を記念し、「札幌黄」の生みの親であるウィリアム・ペン・ブルックス博士の顕彰碑が記念館の前庭に建立された。除幕式には博士の曾孫がオンラインで参加し、「札幌の農業発展に曾祖父が貢献したと認めていただき本当に嬉しい」と感謝の言葉を寄せた。隣には「わが國の玉葱栽培この地にはじまる」の記念碑（昭和53年11月建立）もある。

同館のもう一つの目玉は、札幌の玉ねぎ栽培に関する歴史資料類59点（札幌市指定有形文化財）である。明治4年（1871）、開拓使がアメリカから輸入した種子を札幌官園で試作したのが、日本の玉ねぎ栽培の始まりとされている。クラーク博士の推薦で札幌農学校に招へいされた教師、ウィリアム・ペン・ブルックスは、明治10年（1877）、故郷のマサチューセッツ州原産の玉ねぎ「イエロー・グローブ・ダンバース」の種子を取り寄せて試作を行い、札幌村の農家にも種子を配布して栽培指導をした。やがて村は玉ねぎの一大産地となり、国内はもとよりロシアや東南アジアへも輸出するほどの繁栄をもたらした。

未知の西洋野菜だった玉ねぎ栽培を積極的に推進した当時の指南書（札幌市指定有形文化財）。

現在は収益性の高い品種（F1）が主流だが、ブルックスの種子をルーツとする「札幌黄（さっぽろき）」は今も地元農家に受け継がれている。開拓期の玉ねぎ栽培にまつわる歴史資料や農耕具が、試行錯誤と努力を重ねた農家の苦労や熱意を今に伝えてくれている。

札幌の玉ねぎ栽培に使用されていた農耕具を多数展示。

住　　所：東区北13条東16丁目2-6
電　　話：011-782-2294
休 館 日：月曜（祝日の場合は翌日も休館）、祝日の翌日、年末年始
観覧時間：10:00～16:00
アクセス：地下鉄東豊線「環状通東」駅4番出口から約350m
資料収蔵数：約2,760点
開 館 年：昭和52年（1977）